

ごみの減量・再資源化に関する市民説明会 概要
【西部公民館】

1 開催概要

開催日時		令和 8 年 7 月 27 日(月) 19:00～20:20
開催場所		西部公民館 大ホール
出席者	市民	32名
	行政(市職員)	環境部長、資源循環型施設建設推進参事、 ごみ減量企画室職員 3 名、廃棄物対策課職員3名、 環境政策課職員1名

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	草木類のリサイクル	(1)時期により花や木が指定袋一杯に出ることがあるが、燃やせるごみとして出す以外ないのか。 (2)持込処理する草木類はリサイクルされているのか。	(1)上田クリーンセンター北側の民間業者へ持ち込んでいただくと、有償にはなるが処理は可能である。 (2)焼却することなくリサイクル(チップ化)している。
2	草木類のリサイクル	長野市では、ごみ集積所に出された草木類は無料で集めてチップ化していると聞いている。上田市でも調査をして前向きに取り組んでほしい。	リサイクルすることより可燃ごみの減量につながるので、長野市など先進自治体の取組を参考に検討してまいりたい。
3	資源循環型施設	今の可燃ごみ量であれば、計画している資源循環型施設の処理能力では処理できないのではないか。	可燃ごみの推移を見ていただくと、令和 12 年度に 28,718 トンという目標値を掲げており、これを基に規模を算出しているが多少の余裕も見ている。仮に目標に達しなくても処理は可能となるが負荷はかかってくるので、目標達成に向け引き続きごみの減量・再資源化にご協力いただきたい。

4	布類の回収	私の自治会では、以前、布類の資源回収を止めて、現在も行っていないが、他の自治会の状況はどうか。	布類の自治会資源回収をしていない自治会は複数ある。これは、綿混入が分からず他の布類まで出されてしまい、役員が大変になってしまうといったことが主な理由である。
5	ぱっくん	ぱっくんは無償でいただけてありがたいので、もらいやすい環境に努め推奨してほしい。	大勢の方にこの取組に協力・チャレンジしてもらいたいので、気軽にもらいに来れるよう、もらいやすい環境づくりに努めてまいりたい。
6	ごみの分別	次のものはどのように出せばいいのか。 (1)アルミホイル (2)シリカゲル	(1)燃やせないごみ (2)燃やせるごみ
7	布類の回収	自治会の資源物回収と古着回収が混同してしまい、古着回収のチラシに不備があるので訂正してほしい。	布類の回収は綿が混入している17品目の自治会資源回収とエコハウスで実施している古着回収の2通りあるが、古着回収のチラシが資源物回収と混同して分かりづらいので、工夫して作成する。
8	布類の回収	自治会の資源物回収に立ち会った際、業者から綿100%のものしか回収しないとされたが、行政と齟齬があるのではないか。	綿の混入率は100%でなくても良い。業者対応が違うといった場合などは行政でも確認するので、市役所廃棄物対策課までご連絡いただきたい。
9	周知方法	分別については繰り返し伝えていくことが大事なことだと思っているため、広報うえだにコラムなどで毎月掲載するなど検討してほしい。	ご提言いただいたように、広報のほかホームページやSNSなどを駆使して市民の方に広く周知するために、また理解いただくために工夫してまいりたい。
10	周知方法	知識や意識を変えることが大切であり、草木類も生ごみのリサイクルシステムも費用対効果といった面もあると思うが、行政のシステムや方法の問題であり、お金がかかっても仕方ないと思っているので、引き続き検討を続けてほしい。	市民一人一人が意識を高めていただくことでごみの減量につながるため、市民説明会のように繰り返し伝えていくことが大切と思っている。これからもいろいろな方法を考え、市民の方に伝えていきたい。

11	最終処分場	(1)最終処分場の新設は困難と説明があったが、上田市を含めた広域での今の動向はどうか。 (2)焼却灰の処理には莫大な費用がかかっているが、その費用は広域で負担しているのか。	(1)資源循環型施設の際もそうであったが、新設する場合には地域の皆さんのご理解がなければ進めることができないこともあり、新設は困難という資料としている。決して最終処分場を造らないということではなく、広域連合で責任を持って上田市以外の市町村(東御市、長和町、青木村)のいずれかに造るという計画で検討を進めている。 (2)資源循環型施設は東御市、長和町、青木村のごみも受入れるため、それぞれ割合で負担をいただくが、現在の焼却灰の処理もそれぞれ負担していただいている。
12	最終処分場	役目を終えた下室賀最終処分場の浸出水の処理費用は上田市負担なのか。	(1)浸出水とは、処分場に振った雨等が浸透して出てきた水のことだが、処理は市が単独で行っている。新たに処分場ができて浸出水の処理は続くこととなるため、現在も地元の皆様と協議を続けている状況である。